

2 研究部の研修状況と反省

(1) 校長研究部

① 研修会の実施状況

回	期 日	会 場	研 修 内 容	参加人数
1	5・30	教育会館	○全体会 研究テーマと研究内容の共通理解と確認 ○小中学校別情報交換	140人
2	7・28	教育会館	○講話 ・演題「幼児教育と 小学校教育の円滑な接続について」 ・講師 静岡県幼児教育センター 幼児教育推進室長 福井 孝子 氏	134人
3	11・15	教育会館	○講話 ・演題「今後の学校の環境変化と教員養成」 ・講師 静岡大学大学院 教授 武井 敦史 氏	125人

② 研究部の研究内容

ア 本年度の研究目標

「超スマート社会 (Society5.0)」の実現に向け、先端技術が高度化して社会の在り方そのものが劇的に変化するとともに、予測が困難な時代になっている。また、新型コロナウイルス感染症による社会の生活様式の変容や平和の尊さを改めて感じたりする中、教育をめぐる状況は、大きな変化とうねりの中にある。

このような中、国は、学級編制の標準を引き下げることやGIGAスクール構想などの具体的な施策を取り入れながら、すべての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学びと協働的な学び」の実現を図る「令和の日本型学校教育」の構築を目指している。

浜松市においても、第3次浜松市教育総合計画後期計画「はままつ人づくり未来プラン」の目指す学校の実現を目指している。各学校においては、校長のリーダーシップの下、変化への対応だけでなく、より一層、学校の特色や地域性を生かした学校経営を進めていかなければならない。一方、校長の大量交代期の中で、校長職としての資質・能力の向上が喫緊の課題である。研究テーマを「将来を展望し、より質の高い学校経営を目指して～「はままつの教育」の発展に資する校長としての資質向上～」とし研修に取り組むこととした。

イ 研究内容

(ア) 第1回研修会

今年度の研究テーマや研究内容、活動内容について説明し、共通理解を図った。

また、小中学校別に分かれて、情報交換を行った。

(イ) 第2回研修会

静岡県幼児教育センター幼児教育推進室長 福井孝子氏からは、既存の小中学校の教育計画を工夫し、幼児教育施設の教職員との協働の場の設定を検討していくこ

とが重要であると話があった。例えば、校内研修に参加を促す、授業参観と情報交換会を行う、地区の小中学校の校長会、教頭会などと連携するなどの提案があった。

また、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することは重要だが、さまざまな違いを有しており、円滑な接続は容易ではない。そこで、架け橋期（5歳児から小1の2年間）の教育の充実を図ることが大切であり、そのために子供に関わる全ての関係者が立場を超えて連携・協働することが重要になるとのお話を伺った。

幼児教育施設と小中学校の違いを知り、それぞれの教育の目指すものを理解することで連携を進めていくことができるということを改めて学ぶ場となった。



福井 孝子氏による講話

(ウ) 第3回研修会

静岡大学大学院教授 武井敦史氏からは「学校の仕組み自体が曲がり角に立っている。このカーブを曲がり切れれば学校と教員の未来は明るい。もちろん子供の未来も。」と冒頭に話があった。学校の仕組み自体が揺らぎ、加速する学校離れが起こっていると話があった。

また、社会に対する真面目さの基準や、学校はこうあるべきだという基準が古くなっている。決められたことに従って従順に行うということが現状に合わなくなったとき、最後尾を進んでいるのが学校ではないかと話された。

そこで、「公教育はどこに向かう？」の話の中で、これからのキーワードは「多様性」であるとされ、教員の多様化・伏線化、みんな一緒という時代は終わりその教員のよさを高め、学校組織全体でそのよさを生かしていく必要性を語られた。そのために、研修履歴と受講奨励が大切になる。今までは、一元化された中で養成されてきたが、今後は多様な教職員を育てていくことが必要になってくる。校長にその責任を預けて、専門性を育てていくことになる」と語られた。私たち校長の職責の重さを、再確認するとともに、今後の教育界を担う若手教職員を育成していくことの必要性を改めて感じる講話となった。



武井 敦史氏による講話

③ 研究の成果と課題

幼小中の連携の在り方や小中学校と幼児教育施設との違いを明確にすることで、校長の視野を広げることができた。中学校との連携については、参加者から難しい面もあることの指摘を受けた。幼小の連携そして小中の連携を深めることで、子供理解を図っていくことが重要であることを認識した。また、教職員の多様化を図っていくことが必要であることの示唆を与えていただき、校長の役割を明確にすることができた。この研修会を通して、校長の力量向上の一端を担えたことを、参加者のアンケートから推測することができた。今後も、実りある研修会を推進していきたい。

(文責 校長研究部長 石山 知義)